

受賞作品

働き方の男女不平等**理論と実証分析**

山口一男 著

日本経済新聞出版社 272 ページ、3200 円（税別）



書評

因果推論駆使し格差解明

大阪大学教授 大竹文雄

男女間で賃金に差があることを示しただけでは男女間格差が存在するとは言えない。他の属性が異なっていることが原因かもしれないからである。同じ人がもし性別だけ異なっていたらどうなっていたか、という反事実と比較して初めて正しい分析が行える。

著者はこの手法を駆使して日本の男女間賃金格差の原因を解明し、その是正策を提案している。

第 1 章で女性活躍推進の遅れと日本的雇用慣行の関係についての優れた展望を示し、第 2 章で管理職割合の男女間格差、第 3 章で男女間の職業分離、第 4 章で男女間の所得格差についての分析を行うことで日本の管理職割合や職業分離の状況が人的資本をコントロールしても説明できないこと、所得格差を決定するのは昇進格差であることを明らかにしている。

後半の第 5 章と第 6 章ではワークライフバランスの推進が男女間賃金格差や生産性に与える影響について検証し、ワークライフバランス自体ではなく、企業が男女平等の雇用政策を明確に打ち出すことが重要であると述べている。さらに第 7 章では管理職としての能力に男女差があるという偏見が企業側にあると、実際に能力投資に男女差が発生し、予言の自己成就が発生しやすいことを理論的に示している。

市場への直接的介入策を用いることで、効率性が高い社会にできるという第 8 章の議論は伝統的経済学者には刺激的だと感じられる場合もあるかもしれないが、本書の実証結果は無視できない。